研究協力のお願い

岐阜県総合医療センターでは、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

なお、研究への参加をお断りになった場合でも、将来にわたって当センターにおける診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究名：総胆管結石症例における ERCP 後胆管炎予防目的の脱落型胆管ステントの有用性に関する後方視的検討

1、研究対象者および研究対象期間

2025年4月から2026年3月までに内視鏡的に初回の総胆管結石治療を行なった患者様。

2. 研究目的・方法

現在、総胆管結石の治療は内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）による胆道採石術が第一選択である。ERCP の際に内視鏡的乳頭切開術（EST）や内視鏡的乳頭バルーン拡張術（EPBD）の後に結石除去を行うが、乳頭処置や結石除去で乳頭へ刺激が加わることにより一過性の乳頭浮腫をきたす。それに伴い一過性の胆汁鬱滞が生じることで ERCP 後胆管炎を発症することがあり、その発症率は ERCP 全体の 2.5%程度と報告されている。ERCP 後胆管炎を予防するために内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（ENBD）や胆管ステント（EBS）を留置することがあるが、ENBD では患者の不快感や事故抜去のおそれがあり、EBS では後日ステント抜去のための再度 ERCP が必要となる。このような背景から腸管内への逸脱防止機能をもたず短期間で自然脱落することを意図した脱落型胆管ステントが使用可能であるが、その有用性の報告は少数にとどまる。本検討では脱落型胆管ステントの有用性を明らかにすることを目的とし、通常診療で得られた情報を後方視的に解析する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢・性別・総胆管結石の最大径、結石数、胆管径、乳頭処置方法、採石処置方法、処置時間、入院期間、血液検査データ（AST、T-Bil、WBC、CRP）、処置による偶発症の有無・その内容

主要評価項目: ERCP翌日の胆管炎の有無
副次評価項目: 処置時間、処置後入院期間、偶発症発症率、処置前後の検査データ（AST、T-Bil、WBC、CRP）の推移

4. 個人情報の取り扱い

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

5. お問い合わせ先

岐阜県総合医療センター　消化器内科　三田　直樹
電話番号:058-246-1111